

G-2 アメリカにおける家庭科カリキュラムの多様性について

福井大教育 鑑本 温美

1. 目下中等教育課程の改訂が進められている。この時にあたり家庭科教育は何をめざしどのような教育を行なうべきかを教育の本質よりあらためて考察する必要がある。この際わが国より50年の長があるアメリカ合衆国の家庭科教育の理念、方法及び内容からも学ぶべき点があると思われるので、この点を明らかにしたい。

2. 1年間の留学による実際の接触と蒐集した教育課程要項、テキスト及び関係出版物による。

3. ①教育の地方主権はアメリカ合衆国の建国以来の伝統である。政府のコントロールを好まず生徒の欲求を出発点とする発想と、プラグマティズムとは家庭科カリキュラムを融通性のある多様なものにしていく。②しかし家庭生活の諸様相の概念と法則の把握を目標に内容を構成するという基本的な姿勢が認められる。③中等学校における職業課程としての家庭科は原則として中学3年より始り高校が主体である。この場合はわが国より一層具体的に職業分野への進出を目ざした教育方針をとっている。一方一般教育に属す家庭科コースも併存し全米平均で約半数を占める。

結論：わが国の家庭科教育があまりにも画一的構造をもつため、かえって目標が明確にならず職業教育と一般教育との混合カリキュラムの感があるとき、カリキュラム構成法はアメリカに学ぶべき点がある。